エッセイ

「加古川を「目的の街」にしたい」

㈱暁美(ル・タンビス)　宮原（みやはら）　秀明（ひであき）



住　所: 加古川市神野町石守323-1
ＴＥＬ: ４２０−５８３５
営業内容: オーガニックヘアサロン

僕が加古川に引っ越してきたのは、小学3年生の頃でした。両親が家を建てることになり、明石から加古川へ。仲の良かった友達とも離れなければならず、子どもだった僕にとっては、それだけで加古川という街に馴染むことができませんでした。

大人になってからは、加古川での生活に特に困ることはありませんでしたが、「加古川じゃないと！」と思わせるような名物や魅力を、僕はなかなか見つけられませんでした。都会でもなければ、田舎でもない。だからといって、嫌いな街ではない。でも「地元を応援したい」という強い地元愛もない。そんな感覚で、これまで過ごしてきました。

ところが、ある日ご縁があって高御位山に登る機会がありました。山頂にある高御位神社のお社について紹介する一文を目にしたとき、僕は思わず足を止めました。そこには『高御位神社は出雲大社と伊勢神宮のちょうど間に位置し、お社も正面が伊勢神宮、背面が出雲大社を向くように建てられている・・・』と書かれていました。

僕はスピリチュアルな人間でも、特別に信心深いわけでもありません。それでも、「これは、なんかすごいんちゃうか?」そう思った瞬間、背中に衝撃が走ったような感覚を今でも覚えています。

そこから興味を持って調べてみると、高御位山は「播磨富士」とも呼ばれ、パワースポットとして紹介されることも多い場所だと知りました。そして何より驚いたのは、この話を加古川の人にしてみても、「高御位山には登ったことがあるけど、そんなことは知らなかった」という人が意外と多かったことです。

もしかしたら、加古川には、まだまだ僕たちが知らない魅力がたくさんあるのかもしれません。僕はこの経験をきっかけに「加古川を通過する街ではなく、わざわざ訪れたくなる〝目的の街〟にできないだろうか」と考えるようになりました。

高御位山のことを一人が誰かに話す。その人がまた誰かに話す。そんな小さな会話が積み重なれば、思いもよらない人やアイデアと繋がり、何か面白い化学反応が起こるかもしれません。まずは僕自身が、加古川の面白さをもっと知り、もっと人に伝えていきたい。

皆さんも、話のネタに一度誰かに話してみませんか?「加古川って、実はこんなところがあるんやで」と。そこから、加古川が「通過する街」から「行ってみたい街」へ変わっていく。そんな未来を、みんなでつくっていけたら面白いなと思っています。

最後までご拝読いただき、ありがとうございました。